



## 目指せ 40 魚種



明治学院大学心理学部 教授

宮本聡介 (みやもと そうすけ)

筑波大学大学院博士課程心理学研究科修了。博士（心理学）。専門は社会心理学。著書は『質問紙調査と心理測定尺度』（編著，サイエンス社），『社会的認知研究 脳から文化まで』（編訳，北大路書房），『新編 社会心理学』（編著，福村出版）など。

筑波大学のキャンパスには、比較的大きな溜池が何箇所あります。私が大学院生をしていた当時は、これらの池にブラックバスが生息していることが知られていました。夕まずめの2時間ほど、ブラックバスを釣るために研究室を飛び出し、学内の池々を放浪するのを日課にしていた時期がありました。筑波大学の周辺には霞ヶ浦や牛久沼など、バサー（ブラックバス釣りを楽しむ人のこと）にとっては垂涎の湖・沼があります。いつしか放浪はこれらの湖へと広がってゆきます。この時期が、博士論文執筆と重なっていたことを今でも鮮明に覚えています。一日中パソコン画面とにらめっこしながら博士論文を執筆していた自分へのご褒美だったのか、執筆がなかなか進まない苛立ちからの逃避だったのかは判然としませんが、この頃から、釣りに傾倒してゆくことになります。

あれから20年以上経ちました。釣り場は川や湖だけでなく、海まで広がり、対象魚種もかなり増えました。最近の釣り物を少し紹介しようと思います。

今、年間を通して最も釣行回数が多いのはシーバスです。日本名で鱈（スズキ）といえばピンとくる方も多いのではないかと思います。イワシなどの小魚を捕食していますが、猛猛で、口に入るものであれば何でも襲いかかってくる習性があります。ルアーと呼ばれる魚の形をした擬似餌を海に投げ、逃げ惑う魚の動きでアクション

を加えながらリールを巻いてゆきます。シーバスは出世魚と呼ばれ、成長とともに呼び名が「セイゴ」「フッコ」「スズキ」と変わってゆきます。スズキクラスになると体長は60センチを超えます。ルアーに食いついたとき、竿から手に伝わってくる重量感は、一度経験すると病みつきになります。写真に写っているシーバスは、私がこれまでに釣った中で最大サイズ89センチです。2013年3月に釣りました。

数年前からシイラ釣りををはじめました。シイラもシーバス同様猛猛で引きが強く、海のスポーツフィッシングの代表格の一つです。船に乗って、シイラの群れを探して相模湾を一日転々と移動します。群れを見つけると釣り人はそこに大型のルアーを投げ込んでアクションを加えながら誘ってゆきます。シイラのような大型魚が小魚の群れを一箇所に追い詰め、海面に向かって突き上げるように捕食する「ナブラ」と呼ばれる光景に出くわすことがあります。ナブラの上がっている場所は入れ食い状態になることがあるため、この光景は釣り人の血を一気に沸騰させます。

繊細な道具を使う釣りも楽しみの一つ。近年、釣行回数が増えているのがメバル釣りです。細くてしなやかなロッド、極細糸を巻いた小型リールを組み合わせたタックルに、1～5グラムくらいのルアーを使います。メバルは夜行性です。小さなルアー、細い糸は絡

みやすく、夜釣りには不向きですが、細心の注意を払いながら、1匹1匹丁寧に釣ってゆきます。サイズは最大でも30センチほどですが、引きが強く、繊細さとのアンバランスに、いつの間にか虜になりました。美味なので、たくさん持ち帰りたところですが、25センチを下回る魚はほとんどリリースします。締まった身にちょっとだけ醤油をつけて食べるお刺身が、我が家では大人気です。

最後に、これまでに釣ったことのある魚を数えてみました。狙った魚、偶然かかった魚など、思い出せるもの計34魚種でした。まだ、それほど多くの種類の魚と出会ったわけではありません。ひとまず40魚種を目指して、釣りライフを楽しんでゆこうと思っています。最終目標は、100魚種！



自己最高 89cm のシーバス。この魚を釣り上げた時の様子は、シーバスマガジン 2013 年 7 月号で紹介されました。